

D 78 女子学生のファッション志向性と刺激希求性との関連性

姫路短大 ○土井千鶴子 愛知学泉短大 倉橋久子
愛知淑徳短大 土田正子 鳴門教育大 藤原康晴

目的 被服の選択、購入 着 装などの被服行動とパーソナリティ特性との関連性については、これまでの研究によって、いくつかの興味ある結果が得られている。本研究では、パーソナリティの1側面である刺激希求性（少々の社会的あるいは身体的リスクを伴う活動を好む傾向、新奇で変化する感覚や経験を求める傾向など）とファッション志向性との関係を女子学生を対象に調査した。

方法 ファッション志向性は、ファッション情報関心度（10項目）、新しいファッションの採用時期、着 装の実態（10項目）、外出着の購入店舗（6項目）、外出着の購入基準（15項目）、外出着の好み（20項目）の合計62項目を用いて測定した。刺激希求性は、寺崎らによって翻訳された日本語版刺激希求性尺度を用いて測定した。この尺度は、38アイテムからなっているが、女子学生に適しないと思われる3アイテムを除いた35アイテムを用いた。各対象者の35アイテムへの反応を合計し、刺激希求性得点の高、中、低の3グループに分割した。また、ファッション志向性についても、各下位尺度別はその得点にしたがって、対象者を3分割し、刺激希求性との関連性を分析した。なお、この調査は女子学生400名を対象に、平成3年10月に行った。

結果 刺激希求性の高いグループは、低いグループに比べて、ファッション情報関心度が高く、着 装によく気配りし、外出着の購入店舗も百貨店の有名ブランド品売り場が多く、外出着としては、個性的で、派手なものを好む傾向のあることがわかった。これらの結果から、刺激希求性特性とファッション志向性との関係を明らかにすることができた。